

学校通信

平成26年10月28日
北九州市立飛幡中学校
全国学力調査特集号

平成26年度 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

日ごろより、本校の教育活動へのご理解・ご協力をいただき、誠にありがとうございます。
さて、文部科学省による「全国学力・学習状況調査」を、平成26年4月22日(火)に、3年生を対象として、「教科(国語・数学)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。
この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。
なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

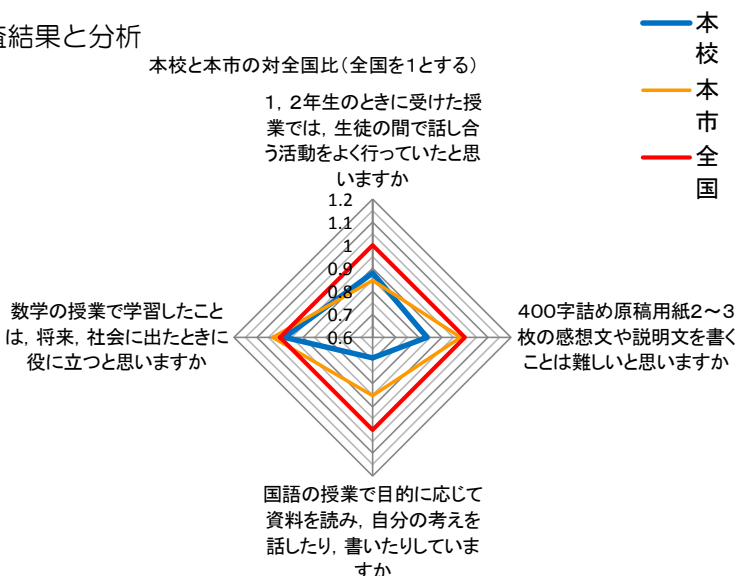
1. 教科に関する調査結果の概要

① 学力調査結果と分析

カテゴリー	全国平均との比較	学力調査の分析(傾向や特徴)
国語A	全国平均正答率を下回っている。	・全体的に全国平均正答率を下回っていた。 ・伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項に課題があり、調べる機会を設け、調べた語句を身に付ける活動を行う必要がある。
国語B	全国平均正答率を下回っている。	・全国平均正答率を大きく下回っていた。 ・文章の内容について、根拠を明確にして、自分の考えを書く問題に課題がある。
数学A	全国平均正答率を下回っている。	・全国平均正答率を大きく下回っていた。 ・相対度数や確率を求める問題が特に無解答率が高く、正答率も低かったため、資料の活用が苦手なことがはっきりした。
数学B	全国平均正答率を下回っている。	・全体的に全国平均正答率を下回っていた。 ・資料の活用について、事象の傾向を捉え、判断の理由や問題を解決する方法を説明する問題に課題がある。

② 学校における学習状況に関する調査結果と分析

・各教科で学習したことは、将来、役に立つと思っている生徒は、全国平均とほぼ同じで、学校での学習の意義については十分な理解ができている。
・話し合い活動は本市平均を上回っており、全校で話し合いに取り組んでいる成果が出てきている。
・感想文や説明文を書くことに抵抗感を持っている生徒が増加する傾向にある。書くことに関しては、学力調査の結果からも、無解答率が高くなっており、国語科の授業を中心に、自分の考えを書いて整理してから説明させる活動や資料から適切な情報を得て、考えをまとめる活動、学校や学年行事の際にも感想文を書く活動を位置付け、書くことを積極的に取り入れる必要がある。

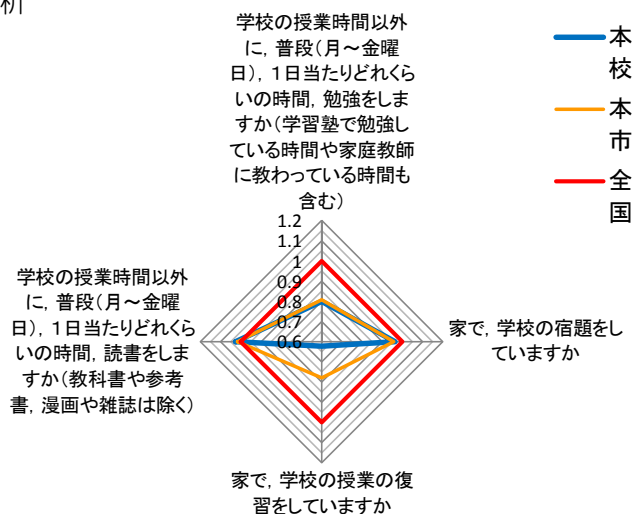


2. 家庭生活習慣等に関する調査結果の概要

本校と本市の対全国比(全国を1とする)

① 家庭学習習慣に関する調査結果と分析

・学校の授業時間以外に、普段、読書をしている生徒の割合は全国平均を上回っており、図書室の整備や朝読書に取り組んでいる成果が出てきている。
・家で学校の宿題はしているが、学校の授業の復習までしている生徒の割合が少なく、課題が見られる。また、家庭学習の時間が全国平均と比べて少なく、特に1時間未満の生徒が多い。全校で学年ごとの家庭時間のめやすを示し、家庭学習の具体的な取組を指導する必要がある。



② 生活習慣等に関する調査結果と分析

・人の気持ちが分かる人間になりたいと思う生徒の割合も多く、人の役に立つ人間になりたいと思っている生徒の割合も全国平均を上回っている。将来の夢や目標を持っている生徒の割合は、全国平均とほぼ同じであるが、自分には、よいところがあると思っている生徒の割合が少ない。
・各学年で発達段階に応じた進路学習を適切に行うことで、自己肯定感を持たせるとともに、夢や目標を実現させ、人の気持ちが分かり、人の役に立つ人間となるために具体的な進路計画を立てることで、行動に結び付けさせる必要がある。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

◎ 学力向上のための特設時間の実施

- ・期末考査前1週間から、全校一斉に基礎的な学習の時間を毎日50分間実施する。＜学力向上週間＞
- ・定期考査実施前に、全校一斉に基礎的な学習の時間を50分間実施する。＜学力向上タイム＞
- ・各学期3週間、国・数・英の朝自習強化期間として設定し、コンクールやテストで評価する。
- ・その際、小中連携サポーターにも活動の補助やプリントの印刷を依頼する。

◎ 過去問題・アシストシート、活用力を高めるワークの活用

- ・夏季や冬季の休業日に宿題として実施する。

◎ 「書く」ことの習慣化

- ・学校行事や学年行事では調べ活動を取り入れるとともに、振り返りカードや感想文を必ず書くようにする。
- ・西日本新聞「春秋」、朝日新聞「天声人語」を視写する。

○ 学力向上に関する職員研修の実施

- ・全教職員で、出題傾向から指導内容の検討をする研修会を行う。

② 家庭生活習慣等に関する取組

◎ 宿題のスタンダード化(時間・学年別・教科別内容)

- ・学年ごとに家庭学習時間を設定し、「家庭学習のきまり」を確認する。
- ・冬休みや春休みの宿題に、過去問題やアシストシートを活用する。
- ・「家庭学習チャレンジハンドブック」を活用する。
- ・放課後等の時間帯を利用して、「子どもひまわり学習塾」や質問教室を実施する。
- ・家庭学習マイスター賞への応募を勧める。
- ・冬休み・春休みの宿題に、過去問題やアシストシート、WEB問題を活用する。

◎ 全国学力・学習状況調査の課題と取組等を保護者へ周知

- ・学校、学年だより及び学校ホームページの充実を図る。